



消防団だより

第 17 号

発行
富士市消防団

富士市永田町1丁目100番地
電話 (0545)55-2852
FAX (0545)53-4633

支部長及び団長として

富士市消防団長

鈴木勝男



平成十九年の年頭を飾る「富士市消防出初式」も無事、関係各位の御出席を賜り、盛大な中にも厳粛に開催できましたことにお礼を申し上げます。

昨年は県消防協会の理事会・評議員会及び東部消防連絡協議会定期総会を富士支部が担当し、無事終了することができました。皆様の御尽力によるものと思っております。

富士市において、消防力の近代化は、着実に進んでおります。同時に団員各位のためまぬ努力により、近代化された消防力を十二分に活用できるよう、日々訓練に精進されていることは、誠に力強く感じています。現在、消防団業務は常備消防機関はもとより、自衛消防組織とも密接な連携を取るとともに、自主防災組織に対しては育成・指導も担っております。更に、国民保護法が制定され、武力攻撃事態等に際しては、常備消防の活動を補完連携し、住民の避難誘導、消火、救助活動など重要な役割が追加されております。

しかしながら、消防団員は全国的に減少し、高齢化、住民の消防団に対する認識の希薄化等、団員増加が重要課題となっており、総務省消防庁では平成十九年一月から三月までに消防団員入団推進キャンペーンを実施し、国民向けに消防団について普及啓発に取り組み姿勢を明確にしております。富士市においても郷土愛護の消防団員の募集について、市民の御理解、御支援いただけるよう、尚一層、地域に根ざした消防団活動に励んでいただくようお願いするものであります。

災害の多様化とともに、消防団を取り巻く環境は変化しており、時代の要求に即応した体制構築に励み、多くの先人の限らない情熱を継承し、ためまぬ努力を積み重ね、地域を守る不屈の精神力により、消防に課せられた使命達成のため、更なる研鑽に励んで頂くことを希望します。

本年が災害の無い平穏な年で富士市消防団が更に飛躍することが出来るよう、消防団の一員としてがんばる所存であります。

気づいてほしい・・・
消防団の本当の姿に。



そこに住む人、働く人、誰でも参加できます。

消防団員募集!

平成 19 年

富士市消防出初式 写真コンクール

 <p>市長賞 作品名:「安心」 出品者:望月和宏</p>	 <p>議長賞 作品名:「颯爽と」 出品者:高山園江</p>
 <p>消防長賞 作品名:「最後まで」 出品者:野口勝子</p>	 <p>消防団長賞 作品名:「空中放水」 出品者:鈴木勝</p>

防火協会賞 作品名:「一番ラツパ」
出品者:國分義久

分団長に就任して

第二十三分団 分団長 望月正康

私が二十三分団に入団して、二十四年間地域の消防活動に携わってまいりました。この度二十三分団分団長に就任し、分団長としての重責を肌と感じ身の引き締まる思いです。

二十三分団は、現在二十一人の団員が所属しており、今年度は三人の新団員が入団しました。私は、分団長として地域の催し等に積極的に参加し、地域コミュニティを大事に地域の人たちに理解をいただけるよう消防活動に邁進してゆく所存でございます。

今、各分団に団員が不足している状況の下、二十三分団は定数三十人に対し二十一人と団員が不足している状況です。新団員の勧誘はなかなか難しい時世ではございますが、地域の人たちが安心して生活していく上で消防団の活動は欠かせないと私は思います。新団員の勧誘にも尽力して行きたいと思っております。

八月現在、十月一日に行われる富士市消防団訓練式並びに消防操法訓練大会に向けて第六方面隊の代表として、団員一丸となって練習を重ねております。日々の訓練の積み重ねが試される時、よい結果がもたらされるようがんばります。



新分団長の抱負

第八分団 分団長 仁藤明良

第二十三代分団長として四月に鈴木団長より辞命を頂き、身の引き締まる思いがします。

我が八分団は放水訓練や地域の消火栓、防火水槽の確認を行ない、火災等に対応できる様、団員の技術、意識向上に努めております。

又、地震等災害に対しては地域住民が自分の町は自分達で守るという気持ちをもってもらい、団員も地区の皆様とコミュニケーションを図り、親しまれる分団作りを心掛けていきます。

消防団は奉仕団体であり、活動には家族の協力が不可欠だと思っております。家族を大切に、地域の住民に親しまれ、分団だけでなく第三方面隊を担う団員達と共に努力していきたいと思っております。



新分団長抱負

第十四分団 分団長 植松正樹

想いおこせば昭和五十三年、第十四分団の団員として入団し、早くも二十八年が経とうとしています。

入団して間もなく、規律要員として訓練大会に出場し、以降ポンプ車操法、小型ポンプ操法の要員として、先輩方の指導のもと大会に向け訓練に精を出してきました。その甲斐あって、ポンプ車操法では、県大会まで行くことができ大変良い経験となっております。

二年前に、地域防災連絡会を立ち上げました。目的は地域防災の意識付けと、減少している分団員の確保にあります。防災においては、地域の皆様が自分たちの町は自分たちで守るという気持ちを持つていただくことが防災の基本だと思っております。

団員の確保については、年数期限付(三年間ないし五年間)、の方向性で提案していきたくと考えております。又、分団の火災出場では、当然のごとく、危険との背中合わせで団員の身体の安全を確保しながら消火活動にあたる責任がある為、分団の責任者として身の引き締まる思いであります。

なお、分団運営については、急に変わるものでもありませんが、先輩たちが築き上げた分団の良い伝統を守りつつ、団員の意見も取り入れながら活気のある分団にして行きたいと考えております。

最後に、地域の住民、分団員の家族の皆様には消防団活動に対して御理解と御協力をいただきまして深く感謝しております。



消防団入団から現在

富士市まとい会 会長 小長井茂

私は、昭和二十七年に富士市消防団第一分団に(現第十三分団)に入団しました。

当時一分団は消防車二台だけで常備消防も無く、火災といえば他町村まで消防に駆け出されました。

想えば岩本の大火、吉原の松本ゴムの火災、狩野川台風の応援等に出動して消防団員としての使命の重さを覚え、大変さの中にも達成感を味わう充実した消防団生活を送りました。

私においては、軍隊経験があるということと訓練式式の要員となり、昭和三十三年の県大会では優勝させてもらいましたし、その後自身自身指揮者として県大会に出場しました。

往年は、県・支部・団の訓練式指導員となり、皆様と接する機会が多く、うるさい恐い奴と云われながらも一緒に訓練して汗を流し、第三、第四方面隊の支部優勝、県大会へ出場等、共に喜びを分かちあうことが出来たことは、楽しく良い思い出となっております。

皆様には、規律ある消防団職務の中で自らを磨き、幅広く親交を深め、社会で有用な人材になってほしいと思っております。

近年、消防団員の高齢化、団員数の減少で総務省消防庁も増員対策にはかなり力を入れていると聞いています。富士市消防団においても状況はかなり厳しくなっていることと推測されますが、強固な体と強い精神力で難題に立ち向かってください。

私自身、昨年より会員百三十二名の富士市まとい会会長を仰せつかり、富士市消防団のよき理解者として側面から支援いたしますので、共に手を携えて進んでいきましよう。

消防団の徽章に桜の花が採用された謂われを知っていますか。桜の花は潔い心意気と郷土愛護の精神を表しています。皆様の桜の花が満開になることを大いに期待しております。



本当に救急車が
必要ですか？

- ★ 緊急でもないのに、救急車を呼ぶ人が増えています。
- ★ 生命の危険がある患者を待たせるかもしれません。救急車の利用について、みなさんの御協力と御理解をお願いします。

当番医の案内は
51-9999
24時間お知らせしています

富士市消防本部

消防団だより

消防家族

第十九分団

岩松小学校四年 鈴木理恵

消防十九分団といっても、ただの消防団ではありません。りょ行で、ラグーナがまごうりに行ったり、お花見でパーベキューをしたりしているのです、わたしはととてもたのしいです。冬はとても大変です。夜おそくまでやけいをしていいます。消防団は町を安全に守っているのです。



消防団では、年に一度消防まつりをします。十九分団ではやきそばを作っています。とってもおいしいです。消防まつりでは、子供がちよつとあそべるようにあそびばがあります。"トランポリン"があります。体けんコーナーもあります。どんなのかというと、火事の時の家の中を体けんする物です。中は、けむりもこもこしてくさいです。でも火事の家の中はこんななんだな一と思いましたが。消防団という物はこんなに大変なことをしているけれども、町を安全に守っているのです。

お父さんは消防団

第十分団

元吉原小学校五年 佐々木太紀



ぼくのお父さんは第十分団員です。ぼくはお父さんが消防団に入るまで消防団員がこんなに地域の人のために働いてくれているなんて知りませんでした。いろいろな行事に出たり、月に一回定例会というのにも出ています。冬には夜警があつて「火の用心」と言つて消防車で回っています。

ぼくはいつも「たいへんだなあ」と思っています。だから消防車の音が聞こえてくると外に出て手をふっています。仕事をしながら消防団員としてがんばつてすごいと思います。そんなお父さんがかっこいいです。ぼくも弟も応援しています。体に気をつけてこれからも消防活動をがんばってください。



欧州消防研修参加報告

副団長

山本信英

この度、日本消防協会の要請を受け、平成十八年度消防幹部等海外消防研修調査団(団長 秋本敏文日本消防協会理事)の一員として参加しました。この調査団は、海外の消防制度、活動の実態を調査するとともに、各国消防組織との相互理解と交流を深め、より見識を高め、消防の発展に寄与することを目的として実施され、いずれの訪問先でも丁寧な歓迎を受け、消防関係高官(総裁・長官)の方々の対応をいただき、貴重な体験をさせて頂きました。

調査団の概要

実施日平成十八年十月二十二日～三十日(八泊九日)
調査団員 二十一名

●訪問国等

ドイツ連邦共和国	イギリス
イギリス消防本部	イギリス消防本部
イギリス消防協会	イギリス消防協会
イギリス義勇消防協会	イギリス消防大学校
イギリス消防博物館	ロンドン消防本部
ロンドン消防トレーニングセンター	ロンドン消防協会
ドイツ消防本部	ロンドン消防博物館
ドイツ消防協会	ロンドン消防協会
CITF本部	ロンドン消防トレーニングセンター
フランクフルト市消防局	ドイツ消防協会
ベルリン市消防局	CITF本部
ベルリン市西消防署	フランクフルト市消防局
オッペンバッハ消防本部	ベルリン市消防局

イギリス

常備消防組織と義勇消防団組織(日本の消防団)で構成されています。しかし、ロンドンでは、火災出動、災害救助、交通事故救急等の全てが常備消防のみで対応しています。地方では、常備消防組織は人数が少なく、特に田舎では、火災、災害救助、救急活動の対応は、義勇消防組織が主として対応する為、常備消防と同様の活動が必要となり、専門技能・技術の習得が不可欠で重い責務が課せられています。

出動は、状況に応じて車両を乗り換え急行します。常備消防も義勇消防も同様の装備車両を有し、近年は、特にテロについて非常に敏感で、国を挙げて組織力、統率力の強化充実に力を入れているようです。更に、消防大学校においては、運営、研究、組織規模等、日本とはけた違いな敷地面積(二〇〇ha)を有しています。あらゆる火災・災害をシミュレーションし、訓練施設は全て実物(ビル・飛行機・船舶・石油コンビナートなど)を設置し、より実践的な訓練ができるように整備されています。消火訓練は、実際建物に火を放ち、濃煙・熱気の中で消火するというもので、日本のように、想定と模擬施設を使った訓練では得られない実活動における経験ができ、感銘を受けました。

ロンドン同時爆破テロで活躍した都市捜索救助隊の養成コースもここで行われており、常備消防・義勇消防とも同じ施設でトレーニングを行い、全国的な消防力の対象は、イギリス国内の消防に限らず、警察・民間の航空会社等、広く国外にも門戸を開いているそうで「日本の皆さんも是非イギリスの消防学校で学んでください」との事でした。

ドイツ



第二次世界大戦敗戦国となり、独裁政治を改めるべく州単位の政治となり、消防組織も州法に依り、市に常備消防の設置を義務付けています。イギリス、日本と同様、常備消防組織と義勇消防組織で構成されて、特に義勇消防隊員は、日本の消防団九十二万人を上まわる百三十万人がおり、義勇消防隊員は全くのボランティア活動で、手当・報酬はありません。しかも、地方ではイギリス同様、火災はもとより、救助・救急活動もしているとの事で、その高邁な精神は見習いたいものです。

イギリス・ドイツの消防事情視察研修を終え感じたことは、日本では、全国津々浦々、常備消防と消防団が組織され、きめ細かな消防活動が実施されており、大変素晴らしいことだと改めて思いました。施設・整備機械等の一層の充実を図ることは勿論、一朝有事には、その組織力を生かした活動が出来るよう、今回の研修を踏まえ、日々研鑽を積みみたいと思えます。

消防団だより

ラッパ隊活動報告

ラッパ隊長 河合真佐男

消防団関係の式典では、単ラッパによるラッパ吹奏が行われています。

演奏は各消防団の団員が、ラッパ隊として編成され、式典の演奏を担当しています。

しかし、富士市消防団にはラッパ隊が無く、全国の消防団に肩を並べようと、昭和六十二年四月一日に富士市消防団ラッパ隊が発足され、当時は隊長以下二十六名で、活動を行っていました。

私は自衛隊でのラッパ隊員の経験があったため、発足から半年後の昭和六十二年十月一日に富士市消防団ラッパ隊の隊長として消防団に入団しました。以後副隊長を経て、平成四年に隊長となり、現在に至っております。

ここ数年の活動を振り返ると……。

平成十七年富士市において静岡県消防大会が開催されました。「富士市・富士宮市・芝川町の三団組織されている富士支部で受入れ体制をとれ」との事、式典に必要なラッパ吹奏、ファンファーレ、国歌「君が代」等、式典に必要な音楽はすべてラッパ隊で行うとのこと。富士宮市消防団にもラッパ隊があるため、合同演奏することとなり、富士宮市ラッパ隊と打合わせ、合同練習を行い、無事式典を成功裏に終了しました。その後、本年八月、長野県におけるラッパ隊訓練大会を富士宮市ラッパ隊と合同で見学に行くことができました。吹奏の技術の高さ、諸動作の機敏な動きに目を見張るものがありました。

平成十六年東京朝霞における自衛隊観閲式典を見学する機会がありました。富



士市消防団ラッパ隊は、自衛隊儀仗隊長に挨拶すると共に、日本国首相に対する特別儀仗の見学をさせてもらいました。ラッパ隊二十五名、儀仗隊百二十名のラッパ儀仗。一糸乱れずとはこのことか、という素晴らしい姿を拝見しました。富士市消防団ラッパ隊もその姿を手本とし、ラッパ吹奏を心がけ、見る人聞く人に感銘を与えるべく、日々努力しております。

平成十九年十月、自衛隊観閲式が東京で開催されます。富士宮市ラッパ隊共々再び式典に参加、研修できるように強く要望しております。

分団員の皆様、又分団長の協力がなければ、中々実現できません。今後のラッパ隊の活動に、経済的にも人員的にもバックアップ御協力をお願いし、これまでの経過報告とさせていただきます。

夜警

第十二分団 班長 藤田幸英

今年度も、十二月より夜警が始まり分団員を三人から四人のグループに分け分団地域の夜の警備に当たる私も消防団に入団するまでは、この様な夜警を行っていた事は知りませんでした。

入団した当初先輩方から昔は翌朝まで詰所で詰めていた事や色々な話を聞き驚きの連続でした。今、私も夜警に参加し警備を行う重要性を身にしみて感じています。テレビのニュースなどでも報道される痛ましい災害、事故、犯罪など今の時代だからこそ、夜警は地域の防災だけでなく、事故・犯罪への抑止力にも繋がると考えています。夜警に出たその日が何も起こらず無事に終わる事の安堵感、しかしながら、今の団員人数では少なく夜警には最低四人から五人のグループが必要と感じます。夜警に出る回数や仕事の都合で出られなくなってしまう事もあり代わって貰い夜警に就いていますが、やはり新しい団員の確保は必要であると考えます。

夜警だけでなく普段からの消防団活動の必要性や大切さを若い方々に伝え共感して貰いながら、消防団活動に参加して貰い、地域住民に必要とされる消防団であり続ける事だと思えます。



夜警

第十七分団 団員 谷澤広明

消防団に入団し、今回で十一回目の夜警を行っています。

ベテランの方が多い富士市消防団の中では新参者で、表面的な事しか書けないと思いますが、夜警について、私の感想を含めて書きたいと思えます。

まず夜警ですが、年末年始を含む十二月二十日～二十日迄の二ヶ月間、休み無く行う夜間の特別警戒です。時間は、午後八時から午前0時迄ですが、翌日に仕事を控えている場合が多いので、決して楽なものではありません。この時間内に、消防車の点検を行い、受け持ち区域の巡回パトロールを行います。パトロールでは、警鐘を鳴らして市民の方に防火をお願いするとともに、万が一の火災に備えて、道路工事等で通行止めがないか、新しい建物が建てられていないか等も確認しています。この時、寒い中にも関わらず小さな子供が手を振ってくれたり、道を譲って頂いたり、声を掛けて頂くこともあり、消防団員をやっている良かつたなと思う時が多々あります。

パトロールが終わってからは、詰所に戻り、日誌を書き待機となります。待機中は、火災や、消火活動の話もしますが、正直言って消防に関係無い話をする事が多いです。ただ、私は富士市出身ではないので、消防団に入らなかつたら、たぶん知り合う事が無かつた諸先輩方や仲間と話ができて、地域の交流が少なくなっていると言われている現在、とても有意義な時間を過ごしています。

最後に、夜警についての私の感想ですが、消防団に入る前は、「消火活動」こそ消防の仕事だと思っていました。しかし消防団に入り、夜警を経験し、それよりも夜警に代表される「防火活動」こそが地味ですが、本当の意味で市民の生命財産を守っていると感じています。

規律訓練大会を顧みて

第二十一分団 分団長 稲葉明光

思い起こせば、二十六年前は「右向け右」、「左向け左」も知らなかつたし、どの様に動くかすらわからなかつた。何でこんな事をするのかと戸惑いも隠せなかつた。そんな自分が今、教導、列員で成る二十名の人間を指導する立場に有るとは到底想像もしなかつた。

自分が第二十一分団に入ったばかりの頃は、規律の初歩からホースの転長と、先輩団員からみっちり教えこまれ、頭にくる様な事も多々言われた記憶も有る。やはり消防団員の基本となるのは規律だと、今現在に至り分団の方針にも成っている。さて大会に当たり、まずは要員を選抜しなければならぬ。方面隊長に連絡し、各分団から選出してもらった方がいいが、自分の心の中はと言うと「六方面隊は前回準優勝」したというプレッシャーが暗雲のごとく厚く覆っていた。

しかし分団長としての意地と他方面隊に負けたくないと言う思いが、その不安を吹き飛ばしてくれた。

今回新入団員が多く自分自身もポンプ車操法の指揮者は二度経験したが、規律は初めてで早めに訓練しなければと六月から取組んだ。二人の指導員の熱の入った教えに汗を飛ばしながら皆一生懸命頑張った。

仕事の都合上致しかたないのだが、「正規列員が全員揃わないのは我々方面隊だけではないだろう」と心に言い含めながら、ついに大会当日だ。緊張は高まってくる。成る様に成るさと半分開き直り、「集まれ」の第一声。腹にも力が入り半長靴の音が脳にひびく。約十分間があつたという間に終わった。

私の失点も有り入賞は出来なかつたが、新入団員はこの大会に出場した事で規律の難しさ、大切さ、又足並みが揃った時の喜びを頭に描き、次回はよりベンジしてもらいたいと思えます。

訓練大会を経験して



第二十五分団 団員 山口 宏

二〇〇六年十月一日、富士市消防団訓練大会が行われました。その中で、僕は小型ポンプ操法の部で一番員として大会に出場させていただきました。

僕達第一方面隊の練習は、五月のゴールデンウィーク明け位から始まり、最初の頃は何も解らなくて、ましてや礼式の大会にも出場したことがなかったのですが、操法の流れはもちろん規律の基本から覚えていかなければならなくて大変でした。それでも指導員の方々や二分団の副分団長が、一生懸命に教えて下さったので、自分もそれに答えていかなければいけないと思ひ必死になって練習しました。

今考えてみると、僕は物覚えが悪くてみんなに迷惑をかけたなと思います。全体の流れを覚えて、数日たって練習量が多くなった頃、自分の中で燃えてくるものを感じ、この頃から色々細かい所を指導されるようになりました。しかし、練習量が多くなると、筋肉痛がひどくなり、特に一番員と言うポジションは全速

力で走る所もあるので、日頃の運動不足を感じました。時には、夏の暑い日の練習中、フラフラになって立っていられなくなった時もありました。それでも、一緒に練習している仲間達や、いつも手伝いに来て下さる方面隊の皆様は迷惑を掛けられないと思ひ、とにかく最後まで頑張ろうと必死でした。そして大会まで一ヶ月前位になり、練習場所も公設市場へと場所が変わり、僕は大会のことを凄く意識しました。

公設での練習からは、水を出して練習したので、その重さに自分が耐えられるか、という心配もありましたが、ある時、指導員の方に筒先は絶対に放さないという気持ちで持ってくれと言われ、その責任の重さを実感しました。時には指導員の方にも上手になったね、と褒めて頂きその時は凄く嬉しかったです。

大会の前日に、仲間から頑張ってくださいよと、電話があった時、本当に仲間からの期待がかかっているなと思ひ、同時に悔いの残らないよう一杯頑張ろうと強く決意したことを今でも覚えていています。

そして大会当日、教わったことすべて出しきるつもりで大会へと望みました。始まる前までは、かなり緊張してしまいましたが、「操作始め」と声が懸かっからは冷静になって行動できたと思います。

五月からずっと練習をしてきて、本番は一発勝負なので、とにかくやろうと言う気持ちでした。結果的には準優勝でしたが、これは、皆で取った準優勝だと思っています。皆の協力や応援がなければ準優勝も出来なかったと、今でも思っています。最後にこの場をお借りして、五月からずっとご指導、ご協力して下さいました指導員の皆様、第一方面隊の皆様方の半年間本当に有難うございました。

消防団の一員となり

第十一分団 団員 鈴木大悟

今年、入団したばかりの私が訓練礼式の選手に選ばれた時は、正直自分で大丈夫だろうかと思ひました。しかし、先輩達や同じ選手の方に教えて貰い、日に日の練習が面白くなってきました。八月に入り、練習は公設市場に変わり、指導員の方が増え、他の方面隊も練習しているの少し緊張しましたが、気合も入り、やる気も出てきました。

分では上手に出来ている様でも、服装、頭の角度、背筋、指先、そして一番大事な団体行動、とても奥が深いと改めて思いました。大会当日は、緊張していたのと、準優勝で悔しかった事か思ひ出せませんが、始まる時のいい緊張感と笛が鳴り退場していく時の達成感はとても気持ちが良かったです。残念ながら優勝は出来ませんでした。この短い間にそれ以上の事を学び、すばらしい経験と仲間ができました。これからも、団体行動で力を合わせて、消防団活動に励みたいと思います。頑張ります。

平成18年度優勝隊! 「富士市消防団訓練礼式並びに消防操法訓練大会」



訓練礼式の部 優勝

第二方面隊



ポンプ車操法の部 優勝

第三方面隊



小型ポンプ操法の部 優勝

第三方面隊





ソフトボール大会

第四分団 団員 佐野晶彦

照りつける太陽、ほとばしる汗、乾いた草のにおいの中、白球を追って一心不乱に走る、走る、走る……

それほど情熱的で、白熱するスポーツ大会ではありませんが、先日六月四日、第三十回富士市消防団員ソフトボール大会が盛大に開催されました。

消防団員の親睦と健康増進を兼ねた今大会に、第四分団は「優勝」という明確な目標を掲げ、四月下旬から本格的な練習に取り組んでまいりました。四分団が「優勝」にこだわるにはそれなりの訳があります。第二十八回ソフトボール大会、決勝戦で惜しくも第一分団に敗れた悔しさを忘れず、毎日涙をぬらす日々……四分団の詰所には、飾られるはずだった優勝トロフィーの場所が、住人のいない空き家のように空虚感をただよわせながら、分団員に何かを語りかけるように空いています。

一昨年、失った栄誉と奪われたトロフィーを取り戻すべく臨んだ第二十九回

ソフトボール大会。前日から降り続いた雨が当日も止まず、空以上に暗く冷たい思いを四分団団員の心に漂わせました。開会式、第一試合と開催されましたが残念ながら中止。栄誉はともかく、奪われたトロフィーだけでも取り戻そうと臨んだ「じゃんけん」にも敗れてしまいました。虚無感の漂う寒々しい打ち上げで、誰もが誓ったことは、「次回は絶対優勝してやる。」

四月下旬から行われた練習は、仕事帰りのサラリーマンとは思えないほど、やる気と情熱に満ちたものでした。入団して五年目になる私は、今まで規律訓練、ポンプ車操法を体験してきましたが、これほどまでに、団員の心がひとつになることを感じたことがありませんでした。まるで何かに取り付かれたように、ナイターに照らされたグラウンドで白球を追い、バットを振り、声を出す。週二回の練習は雨で中止になったこともたびたびありましたが、充実した時間でした。

そして迎えた大会当日。快晴に恵まれ絶好のスポーツ日和。心も体もウキウキワクワク！ シード権を頂いた四分団は第一試合、第二試合を勝ち進み、決勝戦までやってきました。残念ながら第一分団は、祇園祭前という日程もあり、最高メンバーをそろえることができず敗退してしまつたため、直接対戦して前々回の雪辱を晴らすことができませんでした。決勝戦は同じ方面隊の第七分団。様々な訓練を見ても、やる気があり統率の優れたすばらしい分団です。

結果は惨敗！ 残念ながら自力の差がそのまま結果につながってしまいました。今大会は、準優勝という残念な結果に終わってしまいました。今年度完成予定の第四分団の新しい詰所には、優勝トロフィーを飾るスペースを設計段階から組み込んでいますので、次回のソフトボール大会の際に優勝トロフィーを引き取りに行きます！

二連覇目指したソフトボール大会

第十六分団 班長 高井 貢

平成十八年六月四日、梅雨入り前の晴れた、多少風のあるコンディションの中で富士市消防団員互助会主催による第三十回ソフトボール大会が、富士川緑地運動公園ソフトボール場で開催されました。我が第十六分団は、第九回大会、今のように優勝チームが二チームになった第二十五回大会、そして昨年の大会(第一試合開始早々に雨のため試合続行不能になりジャンケンで勝負が決まった)と過去三回優勝しています。

今大会は実力で二連覇を目指して早朝練習を行い当日を向かえました。しかし、体調不良の者、仕事の都合で急遽出場できない者で、チーム編成は大変でした。第一回戦は、キャッチャーのフライングプレー、チームワークの良さで試合の波に乗り大差で勝利することができました。

続く第二回戦では同じ第五方面隊の第十七分団と対戦し、相手チームは平均年齢の若さ、風を計算した打力で風を味方につけ、我がチームのミスを誘い波に乗り、我がチームは試合の波に乗れず、負けてしまいました。二連覇は夢と消えてしまいました。今大会、最終的に優勝したのは第七分団と第十分団ですが、勝因はチームワークの良さ、試合の流れを的確に掴んだ結果だと思えます。

優勝おめでとうございます。審判員の皆様、公平的確の審判ありがとうございました。ソフトボール大会の目的である親睦、チームワーク作り、体力作りが達成できたものと思います。

最後に、富士市ソフトボール協会の方々によるグラウンドの定期的メンテナンス、周辺の雑草除去、毎朝のゴミ拾い等で、立派に管理された全国に誇れる富士川緑地運動公園ソフトボール場でプレーすることが出来たことにお礼申しあげます。本当にありがとうございました。



新入団員教育を終えて

第六分団 団員 藤田芳晃

五月十四日、富士市公設市場にて、新入団員教育を受講致しました。

五月一日より消防団の一員となり、実際の活動に参加するのはこの日が初めてでした。その為、当日は朝起きた時から不安な気持ちで一杯でしたが、活動服を身にまとった自分の姿を鏡を見た時、良い意味での緊張感を感じました。

公設市場に到着し、右も左もわからない私の目に真っ先に飛び込んで来たのは、力強い掛け声とともに一糸乱れぬ動作で訓練をこなす先輩方の姿でした。分団長よりあれは指導員の方々であると教えられ、「さすが」とただただ唖然とするばかりでした。

開講式の後、午前中は消防団員としての心構えや概要、活動内容などについて講義を受けました。

私は正直言ってそれまで災害が起こった場合は常勤の消防職員の方々が活動するというイメージしか持っていませんでした。しかし言われてみれば、それだけではとても人員が足りるはずがなく、火

災に限らず地震、水害等あらゆる災害時において消防団組織がいかに重要な役割を担っているかを認識する事が出来ました。

講義の後、屋外にて各個訓練、部隊訓練を行いました。号令に合わせて「気をつけ」「回れ右」等の動作を行うのは約二十年ぶり。更に日頃の運動不足も祟って頭と体が食い違い、指導員の方々の無駄の無い正確な動きと比べると、目も当てられない状態でした。

それでもしばらく続けていた内に「どうにか」形になっていき、他の参加者の皆さんとも徐々に動きが揃い始めました。動作の度に聞こえる「ザッ」という音と次の号令が掛かるまでの静寂が心地良く、普段は感じる事が少ない、何か身が引き締まるような思いがしました。

その後、ポンプ車操法の実演を拝見しました。動くべき所では流れる様に迅速に動き、止まるべき所ではピタッと止まる。一連の動作が実に見事で、今の自分から見ればほとんど神業のようでした。忙しい合間を縫っての訓練にもかかわらず、このレベルまで到達するのに一体どれ程の努力を重ねてこられたのか、と想像すると気が遠くなりました。

「自分達の住んでいる地域を自分達で守る」という昨今薄れてしまった大切な精神が、しっかりと残っている事が何か嬉しく、今後もこの伝統を失ってはいけないと使命感を新たにしました。



消防まつり

第七分団 団員 中松泰士

十一月十二日に「第二十回富士市消防まつり」が、市役所北側駐車場で開催されました。当日の朝は、晴れてはいませんが、冷たい風がかなり強く（テントが飛ばされてしまわないかと不安になるほど）吹き、とても寒く感じられたので、来場者が少し減ってしまうのではと心配しましたが、時間が経つにつれ、風もおさまり、最高のまつり日和となつて、たくさんの方が来場されました。

消防まつりには、消防音楽隊や消防団ラッパ隊のすばらしい演奏、カラーガード隊の華やかな演技、園児たちによる可愛らしい踊り、また、起震車や煙ハウスによる災害疑似体験や、ミニ消防車への試乗など、様々なアトラクションや出し物がありますが、やはり消防まつりといえば、各分団が趣向を凝らして出店する模擬店だと、私は思います。

模擬店には、さまざまな食べ物や商品が手頃な値段で並び、また子供たちが喜びそうなゲームをやっている分団等もあり、子供からお年寄りまで楽しめるようになっていて、あちこちで行列ができて賑わっていました。仕事の忙しい中、限られた時間で、準備をしたにもかかわらず、商品だけでなく、店の内外装にも各分団のこだわりが感じられ、看板や装飾などもプロ顔負けのところも少なくありませんでした。このような催事ができたのも、各分団員たちの日頃の努力とチームワークの賜物だと感じます。もちろん家族の協力も忘れてはいけません。今年も多少の反省点はありましたが、無事終了出来て良かったと思います。来場者の方々に、「来年も、また行きたい、行ってみたい」と思ってもらえるような消防まつりであつたら幸いです。



消防まつり

第十三分団 団員 野口幸次

十一月十一日夜（消防まつり前夜）天気予報を確認して寝床につくが、消防まつりの事を考えると、妙に気持ちが高ぶって眠気がなくなってしまう。「おはようございます！」

いつもの間にか眠ってしまった私は、いつもなら起きられない時間に目が覚め、一番に詰所に到着。カギを開け、前日準備していた物を確認しみんなを待つと、みんなも楽しみにしていたのか続々と集まってきました。私達十三分団は「カラ揚げ、ポテトフライ、饅頭」の販売です。天気は晴天です！

私たちは期待と不安を胸にいざ市役所駐車場へ！そこにはすでに他の分団の方々が黙々と準備をしています。私達も周りに負けじと準備します。連絡ミスで忘れ物。慌てて取りに戻りました。何とか間に合った忘れ物を置き準備は終了。開店してしばらくはお客様もちらほら。（今年も完売できるかなあ？）少し不安

消防まつりを終えて

第二十六分団 班長 目黒彰

第二十回消防まつりが、十一月十二日開催されました。我々二十六分団の模擬店は、たこ焼きとおろしにんにく売りです。

私は行事担当を任されていたので、前日までに分団会計さんと材料の調達をし、詰所に皆で仕込みをしました。

近年では、分団員が減少し、行事参加も難しくなり、前日、当日の準備も以前に比べて大変になってきたようです。それでも、長年一緒に活動してきた仲間、少数ながらてきぱきと活動してくれました。

当日は、十二時まではすべて完売し、団員も皆疲れた様でしたが、笑顔で祭りを終了する事が出来て大変うれしく思いました。

今後も、各行事での個々の負担がさらに大きいものになると思いますが、皆で協力して活動していきたい、いい仲間を増やしていきたいと思えます。本当にお疲れ様でした。



新入団教育に参加して

第二十分団 団員 齋藤隆司

去る五月十四日、富士市公設市場にて行われた、新入団員教育に参加しました。

「おおよそ内容は聞いていたものの、何と知らない自分ができるだろうか。」と不安にかられながら研修が始まりました。

まず、会議室で消防団長の挨拶・訓示を聞き、次に責任と心構えや、消防団の概要・活動などについて講義を受けました。講義が終わるころには、消防団の事が分かってきて「消防団に入団したんだなあ。」という実感が湧いてきたのと同時に、責任感も感じて身の引き締まる思いがしました。

次は、外へ出て規律訓練を行いました。各個訓練では、整列や敬礼などを一つずつ丁寧に教えていただきましたが、最初は体がガチガチに力んで震えるほどでした。さらに部隊訓練へと移り、体の緊張に加え皆と揃えなければならず大変苦労しました。しかし、指導員の熱心な教えと皆の努力で徐々にできる様になりました。

午後には、小型ポンプとポンプ車操作法のホースを使って放水の形までを教わりました。長い一日の最後に、修了証をいただきました。長い一日の苦労があつたの価値のある修了証だと思ひ、この初心を忘れずに消防団活動に取り組んでいきたいと思ひます。

この一日を通して、規律訓練やポンプ車操作法などの指導員の手本を見て、この迅速で統制のとれた動作が実際の消火の現場では必要だと感じ、連帯感を強める重要性を学びました。

消防団に誘われた時は、自分が務まるものか半信半疑でしたが、新入団員教育が終わり消防団の一員になったからには責任を持って活動していかなくてはと変わってきました。消防団には様々の活動があり、諸先輩方々を見習って地域に貢献できる様に消防活動はもちろん行事にも参加して行こうと思ひます。



出初式

第二分団 団員 高田和英

早いもので、私が入団してもう十八回目の出初式となりました。前日は、風雨にみまわれ心配でしたが、当日は雲ひとつ無い晴天に恵まれ安堵致しました。毎年厳しい寒さの為、皆防寒対策は万全です。靴下を重ね、ズボン下をはき、この頃では、使い捨てカイロも大活躍です。熟年者になると、バジャマを下にはいてくる人もいます。そこまでする式の後半は、寒さで震えてくる人もいます。

私は車両部隊なので、団員たちを背後から見ていると、皆抜けることなく整列している姿が、とても頼もしく思えます。そんな事を考えると、寒い中で行われるからこそ身も心も引き締まり、新年の良スタートになるのかもしれない。そして、式が終わると分列行進です。

体を動かせるだけ楽になりますが、まだ気は抜けません。一斉に行進体制に入り、先頭が動き出し、車両もそれに続きます。市役所南側の道路に、観客が大勢いる姿が視界に入り、緊張が一気に体を走り抜けます。以前車両長が号令を間違えた事が頭に過ぎります。

観客者に対しての敬礼が無事終わると一気に緊張がほぐれ、車両の中に笑顔が戻りました。最後の放水は、若い団員が筒先を持ち放水準備を整えました。はしご車の合図で放水するのですが、私の所からは見え込みの木が邪魔をしてはしご車がよく見えません。そうこうしているうちに、遠くでサイレンが響き、前にいた仲間から放水の合図を知らされ、バルブを開きました。風向きが悪く辺り一面水浸しになりましたが、その中に虹を見つけたのが和みました。

入団した頃は、早朝から寒くていやな思いばかりでしたが、何時からか年初の楽しみに変わってきた出初式です。

消防出初式へ行こう!

第二十四分団 団員 桐生将勝

皆さんは「出初式」を見に行った事がありますか?

富士市は毎年一月上旬の日曜日に開催されます。

今年は一月七日に挙行されました。市内の全消防団員及び、消防職員ら約一千人が制服姿で一堂に集まり、約四十台もの消防車両がズラッと勢揃いしての式典は、団員にとって年に一度の晴れ舞台! それはそれは壮観で、精悍で、凛々しくて、何を隠そう、私も幼い頃に出初式を観に行つて、あのカッコイイ姿に憧れた一人だったのでした。

そんな私も今は消防団員として、更に私の場合は「消防団ラッパ隊」として毎年出初式に参加しています。毎年寒い中を、早朝から集合・準備して式典に臨んでいます。普段あまり着る事の無い制服・制帽に身を包み、全員が整列していると、益々気が引き締まり、士気が高揚し、職務遂行への決意を新たに、今年も頑張ろうという気持ちになります。

式典が終わると、見学の皆さんはいよいよお楽しみのお青葉通りにおける「分列行進」の始まり! 消防音楽隊&カラーガード隊、我々消防団ラッパ隊の音楽行進を先頭に、出初式参加者全員による分列行進と消防車両のパレード。その後も消防本部レスキュー隊による、スリルとサスペンションな災害救助演習、消防音楽隊&カラーガード隊による華麗なドリル演奏等々、エンディングは県防災ヘリコプター飛来によるド迫力の空中放水&これを合図に全消防車一斉放水・・・と、怒涛の見どころ&お楽しみ満載! 新年最初の一大イベント「消防出初式」で、富士市消防の底力を、地元消防団の晴れ舞台を是非多くの方々に来て、観て、参加して戴きたいと思っております!

分列行進



消防音楽隊とカラーガード隊のドリル演技



一斉放水



新型ポンプ車

第一分団 分団長 矢崎邦明

平成十八年十二月一日、第一分団に新しい消防車が配備されました。

その引渡し式が、消防庁舎前で行なわれ市長様、市関係者を始め、団本部、分団員、総勢約四十人が見守る中、行われました。市長挨拶のあと、新型ポンプ車のキーが市長より団長に、団長より第一分団長の「私」に授与され、市議会議長の祝辞、団長訓示、第一分団を代表しての謝辞、新型ポンプ車の披露と無事に引渡し式が終了となり、引き続き、島田公園に移動し、ポンプ及び操作方法の説明を熱心に受け放水を行いました。

車種「イスズエルフ」ポンプ「日本ドライケミカル」最大放水力、毎分二千リットルと、性能の素晴らしさに驚きをかきしめませんでした。旧ポンプ車は、引き続き第九分団「江尾車両」で活躍する事になり、これからも、大切に使用して頂きたいと思っております。

これからは、最新の消防ポンプ車の配備を機に、第一分団員全員が、一日も早く新ポンプ車に慣れ、フルに活動できる様に定期的に訓練を行なっていき、地域の皆様の期待に添える様に、努力していきたいと思っております。関係各位の皆様、ありがとうございました。



編集後記

「継続は力なり!」この言葉どおり「消防団だより」の発行を続け、本号で第十七号を発行することができました。紙面も年々充実し、内容も多岐にわたるものになってきており、消防団活動を知っていたただくには十分な内容になっているものと確信しております。

これもひとえに、原稿を寄せていただける消防団員、その家族、OB、関係者等皆様のご協力の賜物であります。深く感謝申し上げます。

今後、消防団を取り巻くさまざまな活動や行事等を取り上げ、市民の皆様にご理解いただけるよう、「消防団だより」の充実を図っていけるよう努力していきたいと思っております。

広報紙編集委員長 加藤秋徳

富士市消防団広報紙編集委員

- ◆委員長 第三方面隊長……………加藤秋徳
- ◆副委員長 第十分団 部長……………鈴木貴之
- ◆委員 第二十五分団 班長……………本多信行
- 第四分団 班長……………前田和徳
- 第十三分団 部長……………千葉和男
- 第二十六分団 班長……………斉藤正道
- 第二十三分団 団員……………小林久夫